

性別にみると（表5-5-1）、「コンドーム」と答えた者（男性 89.7%、女性 82.2%）は男性が約9割で、女性よりも約8ポイント上回っている。一方、「膣外射精法（精液を外に出すこと）」（男性 12.5%、女性 18.7%）という者は女性が男性を6ポイント上回っている。

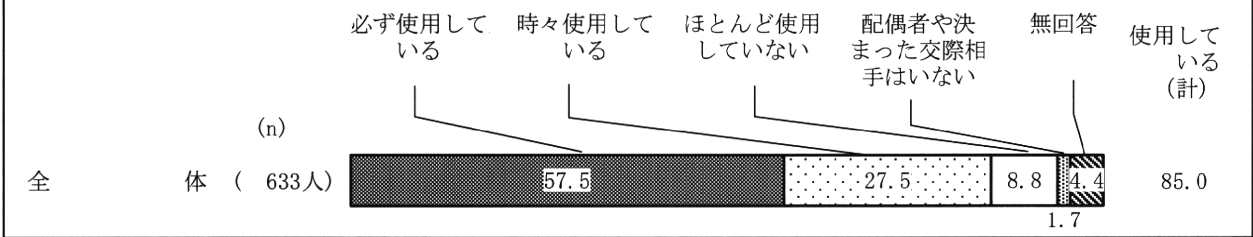
表5-5-1 現在の主な避妊方法（性別）

	(n)	コンドーム	膣外射精法	経口避妊薬 (ピル)	オギノ式 避妊法	基礎体温 法	不妊手術 (女性)	子宮内避 妊具	不妊手術 (男性)
全体	740	85.5	15.9	3.4	3.2	1.4	1.2	0.9	0.3
〔性別〕									
男性	329	89.7	12.5	3.3	2.7	0.3	0.6	0.3	-
女性	411	82.2	18.7	3.4	3.6	2.2	1.7	1.5	0.5

	(n)	洗浄法	殺精子剤	無回答	回答計
全体	740	0.1	0.1	3.1	115.3
〔性別〕					
男性	329	-	-	3.0	112.5
女性	411	0.2	0.2	3.2	117.5

6 決まった交際相手との毎回のセックス（性交渉）におけるコンドーム使用

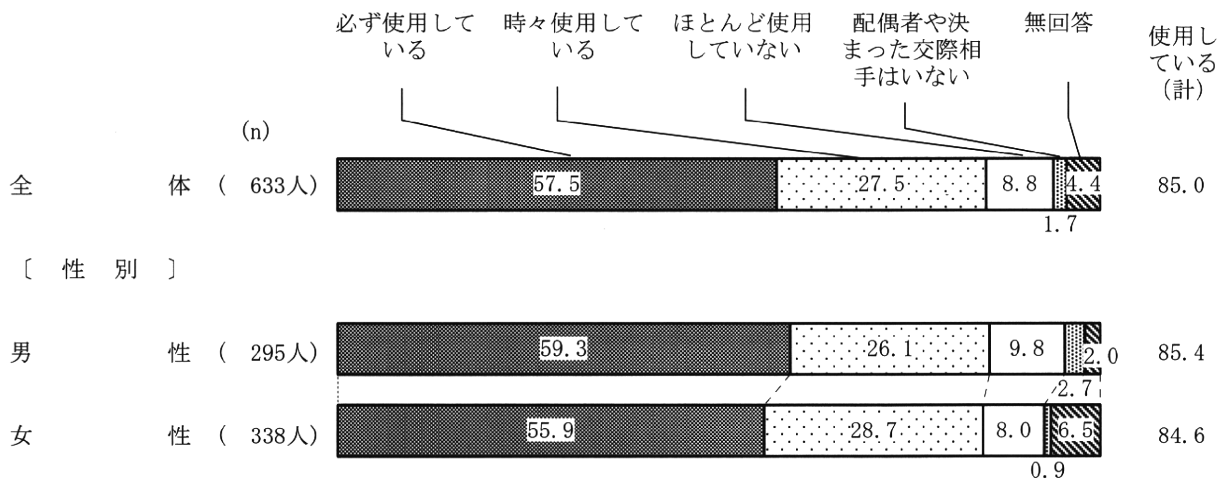
【問 32-1 から問 32-3 の質問は、問 32 で「1 コンドーム」と答えた方にお聞きします。】
 問 32-1 あなたは、決まった交際相手（配偶者含む）とのセックス（性交渉）では、コンドームを毎回使用していますか。（〇は1つ）



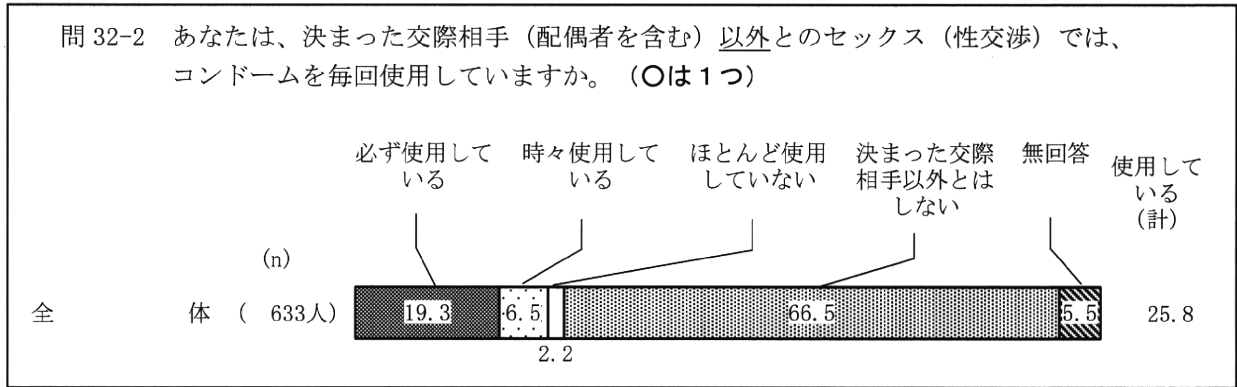
現在の主な避妊方法としてコンドームを使用している者（633人）に、決まった交際相手（配偶者含む）とのセックスでコンドームを毎回使用しているかについて聞いたところ、「必ず使用している」（57.5%）という者が最も多く、「時々使用している」（27.5%）と答えた者を合わせた、決まった交際相手とのセックスでコンドームを『使用している』という者は85.0%である。一方、「ほとんど使用していない」（8.8%）という者は1割未満となっている。

性別にみると（図5-6-1）、「必ず使用している」という者は女性（55.9%）より男性（59.3%）でやや多くなっている。

図5-6-1 決まった交際相手との毎回のセックス（性交渉）におけるコンドーム使用（性別）



7 決まった交際相手以外との毎回のセックス（性交渉）におけるコンドーム使用

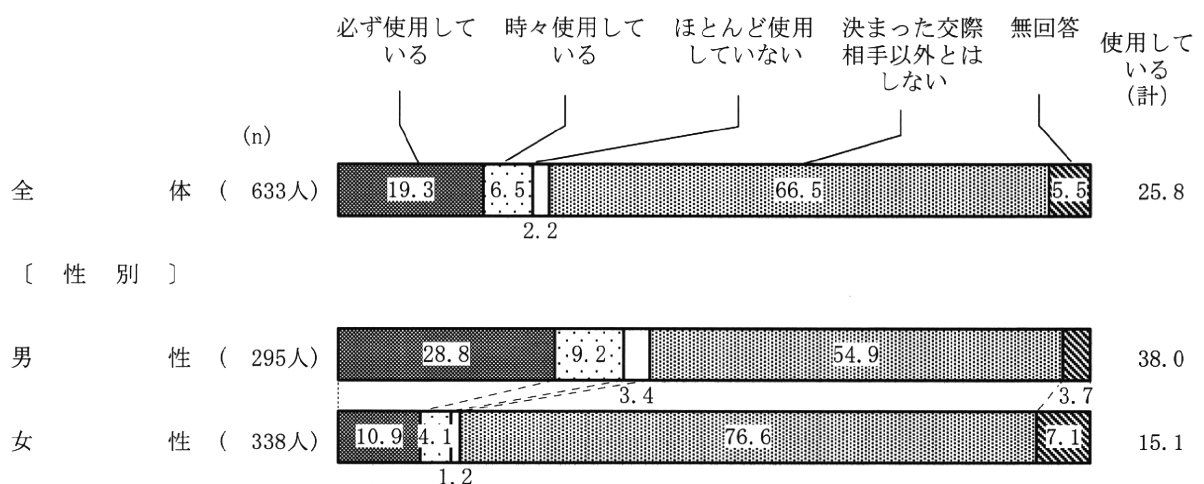


現在の主な避妊方法としてコンドームを使用している者（633人）に、決まった交際相手（配偶者含む）以外とのセックスでコンドームを毎回使用しているかについて聞いたところ、「必ず使用している」（19.3%）者と、「時々使用している」（6.5%）と答えた者を合わせた、決まった交際相手以外とのセックスでコンドームを『使用している』（25.8%）という者は4人に1人である。また、「ほとんど使用していない」という者は2.2%と少ない。なお、「決まった交際相手（配偶者を含む）以外とのセックス（性交渉）はない」という者は66.5%となっている。

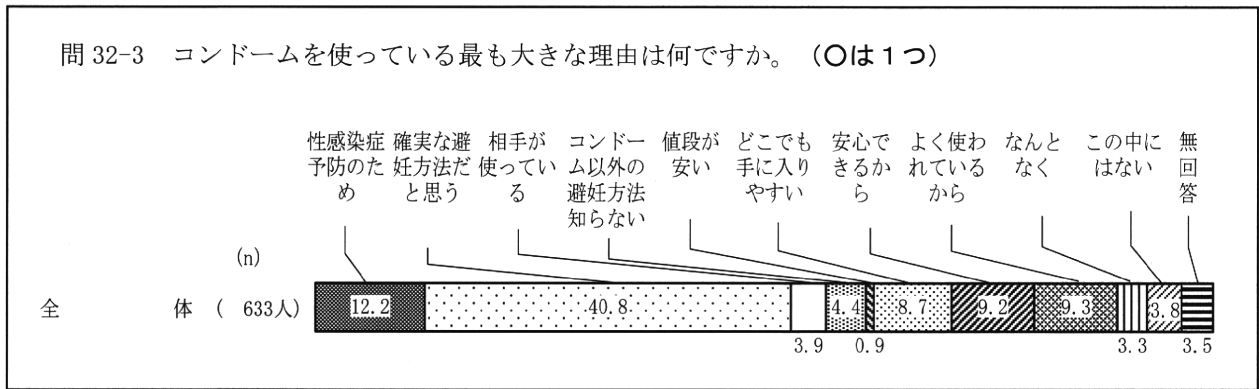
決まった交際相手（配偶者を含む）以外とセックス（性交渉）をしていると答えた177人での割合でみると、「必ず使用している」という者が68.9%（122人）、「時々使用している」という者が23.2%（41人）、「ほとんど使用していない」という者が7.9%（14人）となっている。

性別にみると（図5-7-1）、交際相手（配偶者含む）以外とのセックスでコンドームを毎回「必ず使用している」という男性（28.8%）は3割弱であり、「時々使用している」（9.2%）という者を合わせた『使用している』（38.0%）という者は4割近くに達しており、女性（15.1%）を大幅に上回っている。一方、「決まった交際相手（配偶者を含む）以外とのセックス（性交渉）はない」という者は女性（76.6%）が男性（54.9%）を約22ポイント上回っている。

図5-7-1 決まった交際相手以外との毎回のセックス（性交渉）におけるコンドーム使用（性別）



8 コンドームを使っている最も大きな理由



現在の主な避妊方法としてコンドームを使用している者(633人)に、コンドームを使っている最も大きな理由を聞いたところ、「確実な避妊方法だと思う」という者が40.8%で最も多く、次いで「性感染症予防のため」(12.2%)、「よく使われているから」(9.3%)、「安心できるから」(9.2%)、「どこでも手に入りやすい」(8.7%)の順となっている。

性別にみると(表5-8-1)、「確実な避妊方法だと思う」(男性44.1%、女性37.9%)と「性感染症予防のため」(同14.9%、9.8%)という者は女性より男性に、「どこでも手に入りやすい」(同6.4%、10.7%)と答えた者は男性より女性に、それぞれ多くなっている。なお、「相手が使っている」を挙げた男性はいないが、女性では7.4%が回答している。

表5-8-1 コンドームを使っている最も大きな理由(性別)

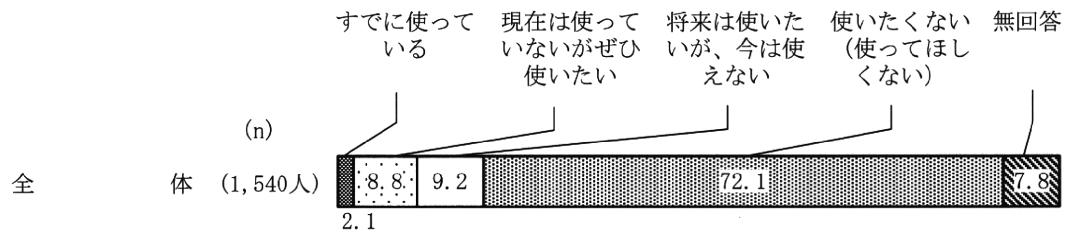
	(n)	性感染症 予防のため	確実な避 妊方法だ と思う	相手が使 っている	コンドー ム以外の 避妊方法 知らない	値段が安 い	どこでも 手に入り やすい	安心でき るから	よく使わ れている から
全体	633	12.2	40.8	3.9	4.4	0.9	8.7	9.2	9.3
〔性別〕									
男性	295	14.9	44.1	-	5.1	0.7	6.4	8.8	9.5
女性	338	9.8	37.9	7.4	3.8	1.2	10.7	9.5	9.2

	(n)	なんと なく	この中 はない	無回答
全体	633	3.3	3.8	3.5
〔性別〕				
男性	295	4.4	4.7	1.4
女性	338	2.4	3.0	5.3

第6章 予期しない妊娠の防止について

1 低用量ピル（経口避妊薬）の利用意向

問 33 低用量ピル（経口避妊薬）は、ホルモン含有量を抑えた、女性が飲む錠剤の避妊薬ですが、あなた自身は低用量ピルを使いたい、または相手に使ってほしいと思いますか。（○は1つ）



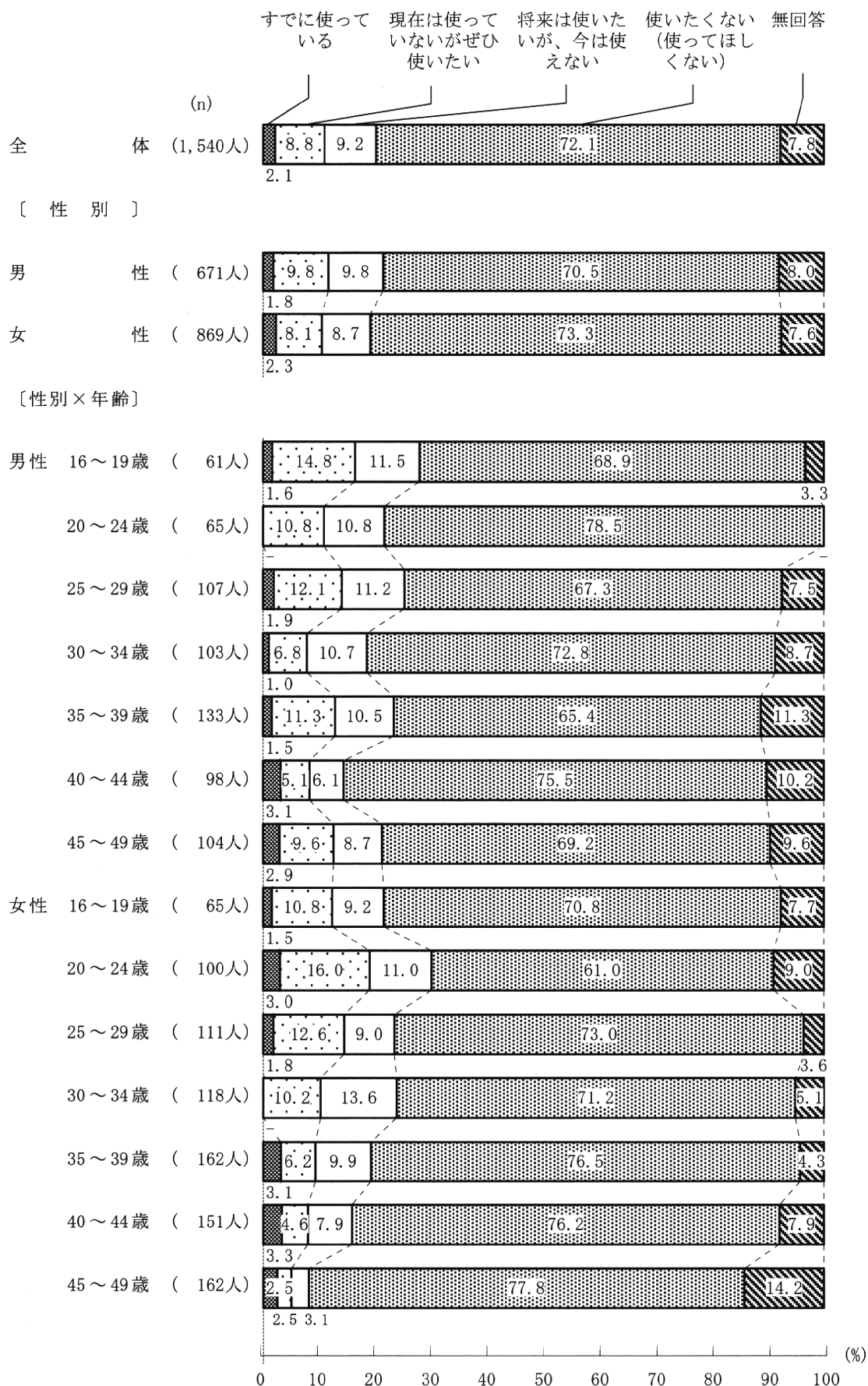
回答者全員に低用量ピル（経口避妊薬）の利用意向を聞いたところ、「すでに使っている」と答えた者は 2.1%で、「現在は使っていないが、ぜひ使いたい（使ってほしい）」（8.8%）と答えた者と「将来は使いたい（使ってほしい）が、今の状況では使えない」（9.2%）という者は1割弱である。

これに対して、「使いたくない（使ってほしくない）」（72.1%）は7割を超えており、多数を占めている。

性別にみると（図6-1-1）、大きな差はみられない。

性・年齢別にみると（図6-1-1）、「現在は使っていないが、ぜひ使いたい（使ってほしい）」という者は女性の20～24歳（16.0%）で、「将来は使いたい（使ってほしい）が、今の状況では使えない」という者は女性の30～34歳（13.6%）で、それぞれ他の性・年齢よりも多くなっている。

図6-1-1 低用量ピル（経口避妊薬）の利用意向（性別、性・年齢別）

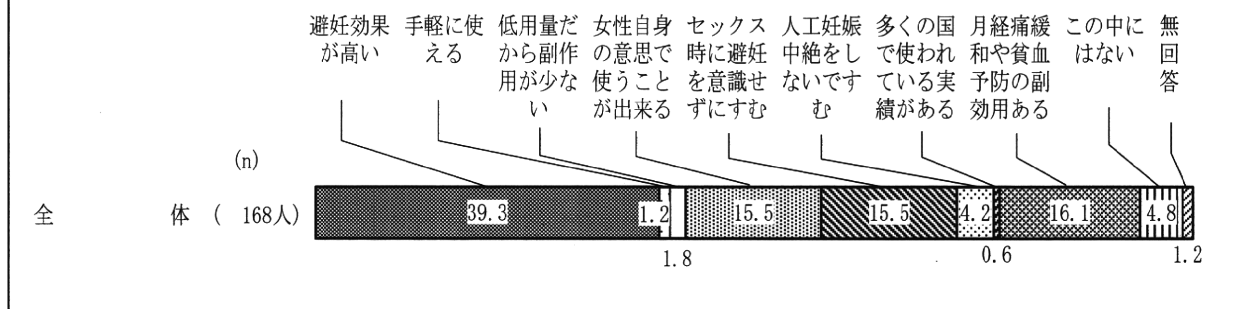


2 低用量ピル（経口避妊薬）を使う最も大きな理由

【問 33 で「1」または「2」と答えた方に、お聞きします。】

問 33-1 低用量ピルを「使っている」または「ぜひ使いたい」と思う最も大きな理由は何ですか。

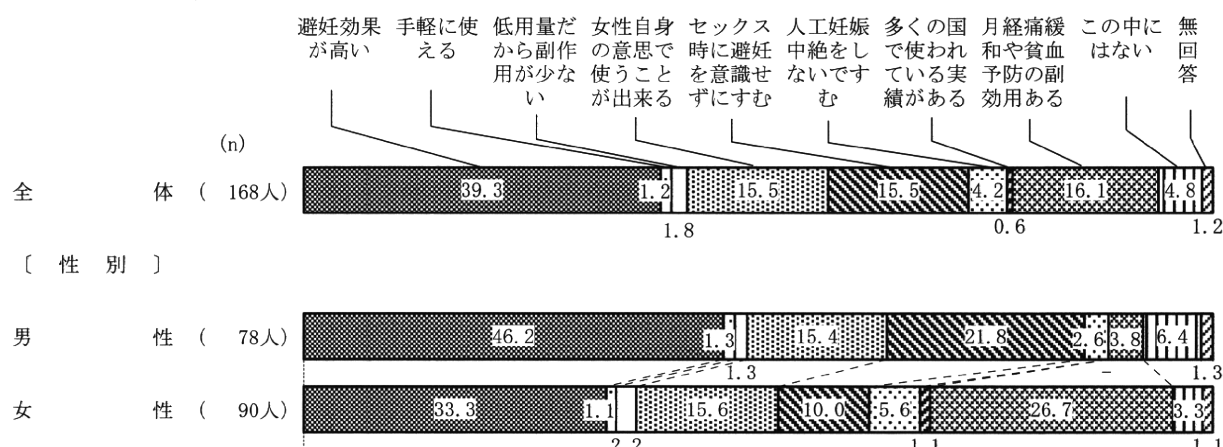
(○は1つ)



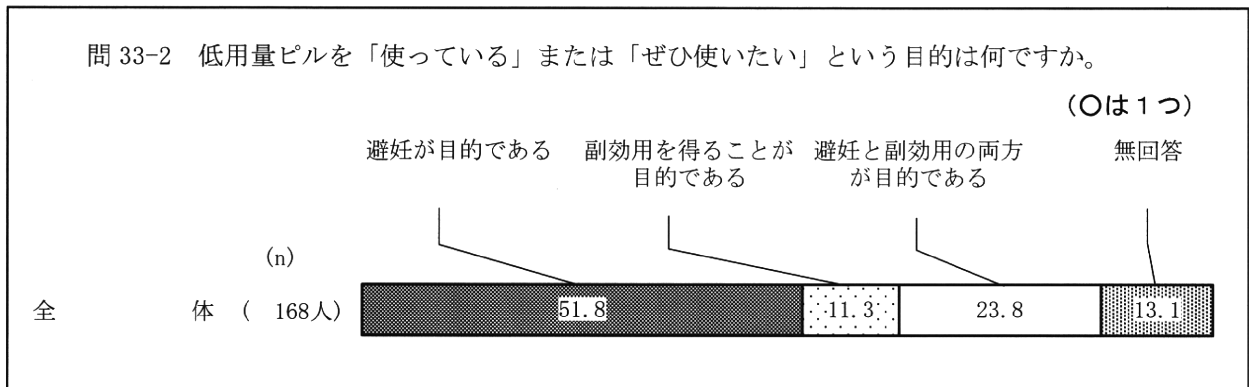
低用量ピル（経口避妊薬）を「すでに使っている」もしくは「現在は使っていないが、ぜひ使いたい（使ってほしい）」と答えた者（168人）に、その最も大きな理由を聞いたところ、「避妊効果が高い」（39.3%）と答えた者が約4割と最も多い。次いで、「月経痛の緩和や貧血の予防などの副効用がある」（16.1%）、「女性自身の意思で使うことが出来る」（15.5%）、「セックス（性交渉）の際に避妊を意識しないですむ」（15.5%）の回答が続く。

性別にみると（図6-2-1）、男女共に該当数は少ないが、男性は「避妊効果が高い」（男性46.2%、女性33.3%）、「セックス（性交渉）の際に避妊を意識しないですむ」（同21.8%、10.0%）と答えた者が女性より多い。一方、女性では「月経痛の緩和や貧血の予防などの副効用がある」（同3.8%、26.7%）と答えた者が男性より多い。

図6-2-1 低用量ピル（経口避妊薬）を使う最も大きな理由（性別）



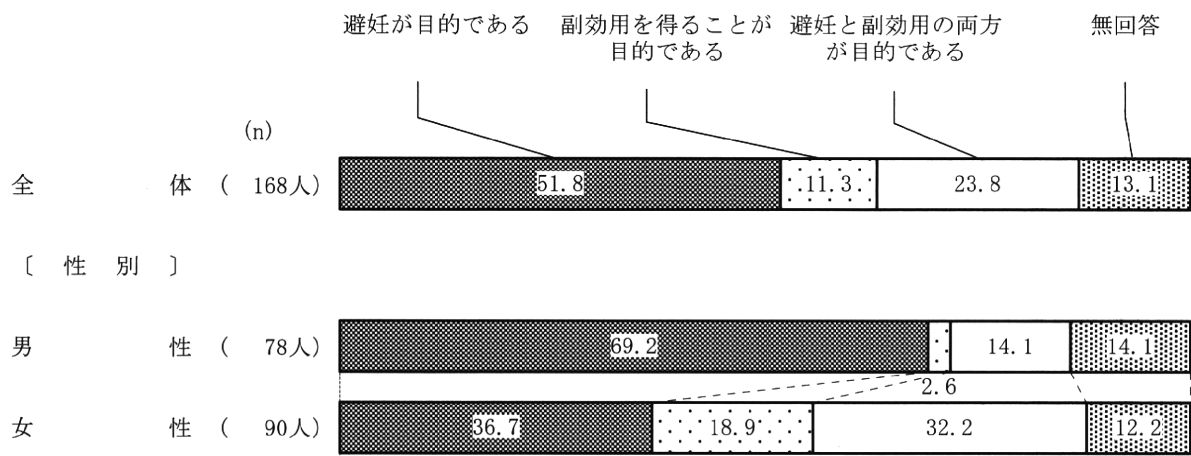
3 低用量ピル（経口避妊薬）を使う目的



低用量ピル（経口避妊薬）を「すでに使っている」もしくは「現在は使っていないが、ぜひ使いたい（使ってほしい）」と答えた者（168人）に、その使用目的を聞いたところ、「避妊が目的である」（51.8%）という者が半数を超えて最も多く、次いで、「避妊と副作用の両方が目的である」（23.8%）、「副作用を得ることが目的である」（11.3%）の順となっている。

性別にみると（図6-3-1）、該当数は少ないが、「避妊が目的である」（男性69.2%、女性36.7%）という者は男性で、「避妊と副作用の両方が目的である」（同14.1%、32.2%）、「副作用を得ることが目的である」（同2.6%、18.9%）という者は女性で、それぞれ大きな差をつけて多くなっている。

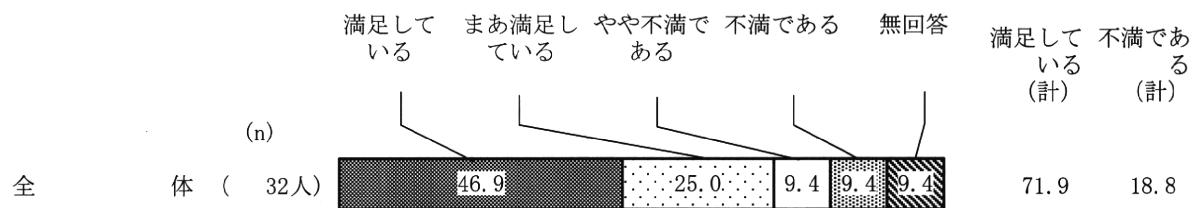
図6-3-1 低用量ピル（経口避妊薬）を使う目的（性別）



4 低用量ピル（経口避妊薬）を使う満足度

【問 33 で「1 すでに使っている」と答えた方に、お聞きします。「2 ぜひ使いたい」と答えた人は問 34 へお進みください】

問 33-3 低用量ピルを「使っている」満足度はどの程度ですか。（○は1つ）



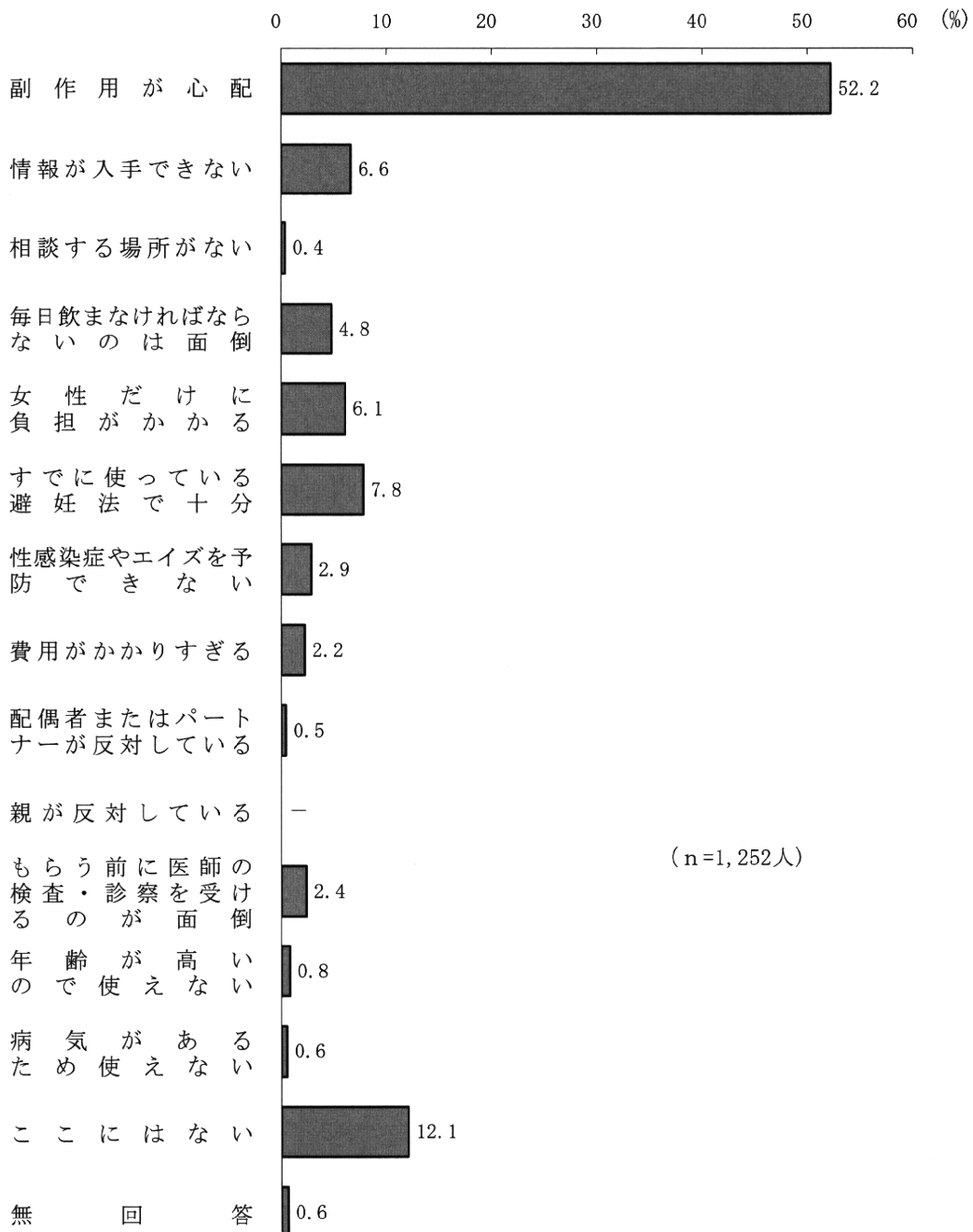
低用量ピル（経口避妊薬）を「すでに使っている」と答えた者（32人）に、その使用満足度を聞いたところ、「満足している」（46.9%、15人）、「まあ満足している」（25.0%、8人）を答えた者を合わせた『満足している』者（71.9%、23人）は7割を超えている。一方、「やや不満である」（9.4%、3人）、「不満である」（9.4%、3人）と答えた者はそれぞれ約1割となっている。

5 低用量ピル（経口避妊薬）を使わない最も大きな理由

【問 33 で「3」または「4」と答えた方に、お聞きします。】

問 33-4 低用量ピルを、「使えない」または「使いたくない」ことの最も大きな理由は何ですか。

(○は1つ)



低用量ピル（経口避妊薬）を「将来は使いたい（使ってほしい）が、今の状況では使えない」もしくは「使いたくない（使ってほしくない）」と答えた者（1,252人）に、その最も大きな理由を聞いたところ、「副作用が心配」（52.2%）であるという者が半数を超えた。以下、「すでに使っている避妊法で十分」（7.8%）、「情報が入手できない」（6.6%）、「女性だけに負担がかかる」（6.1%）、「毎日飲まなければならないのは面倒」（4.8%）と続いている。

性別にみると（表6-5-1）、男女共「副作用が心配」（男性55.8%、女性49.5%）と答えている者が最も多いが、女性より男性で多くなっている。また、「女性だけに負担がかかる」（同9.3%、3.6%）と答えた者も女性より男性でやや多い。一方、「毎日飲まなければならないのは面倒」（同1.5%、7.3%）と答えた者は、男性より女性で多くなっている。

性・年齢別にみると（表6-5-1）、該当数は少ないが、男性の40～44歳で「副作用は心配」と答えた者（66.3%）が3人に2人と、他の性・年齢よりも多い。また、「すでに使っている避妊法で十分」という者は女性の30歳代（30～34歳13.0%、35～39歳12.9%）で多くなっている。

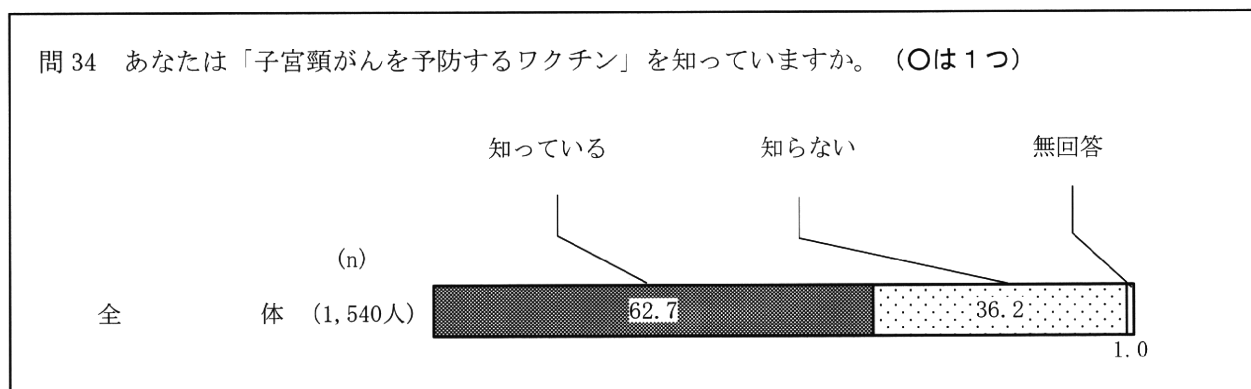
表6-5-1 低用量ピル（経口避妊薬）を使わない最も大きな理由（性別、性・年齢別）

	(n)	副作用が心配	情報が入 手できない	相談する 場所がない	毎日飲ま なければならないのは面倒	女性だけ に負担が かかる	すでに使 っている 避妊法で 十分	性感染症 やエイズ を予防で きない	費用がか かりすぎ る	配偶者や パートナ ーが反対 している
全体	1252	52.2	6.6	0.4	4.8	6.1	7.8	2.9	2.2	0.5
〔性別〕										
男性	539	55.8	7.4	0.6	1.5	9.3	6.1	2.8	0.9	0.7
女性	713	49.5	6.0	0.3	7.3	3.6	9.1	2.9	3.2	0.3
〔性別×年齢〕										
男性 16～19歳	49	55.1	6.1	-	2.0	6.1	2.0	4.1	-	-
20～24歳	58	56.9	10.3	-	3.4	6.9	5.2	5.2	-	-
25～29歳	84	47.6	9.5	1.2	-	14.3	6.0	2.4	1.2	1.2
30～34歳	86	55.8	5.8	1.2	1.2	10.5	10.5	1.2	1.2	1.2
35～39歳	101	53.5	9.9	-	4.0	4.0	5.9	3.0	2.0	-
40～44歳	80	66.3	5.0	-	-	11.3	6.3	1.3	1.3	-
45～49歳	81	56.8	4.9	1.2	-	11.1	4.9	3.7	-	2.5
女性 16～19歳	52	50.0	15.4	-	5.8	1.9	-	1.9	3.8	-
20～24歳	72	51.4	6.9	1.4	9.7	6.9	9.7	2.8	1.4	-
25～29歳	91	48.4	4.4	1.1	11.0	3.3	4.4	3.3	5.5	-
30～34歳	100	49.0	5.0	-	7.0	3.0	13.0	2.0	5.0	1.0
35～39歳	140	46.4	4.3	-	10.0	1.4	12.9	1.4	5.0	0.7
40～44歳	127	48.0	4.7	-	7.1	3.9	8.7	3.1	2.4	-
45～49歳	131	54.2	6.9	-	1.5	5.3	9.2	5.3	-	-

	(n)	親が反対 している	医師の検 査・診察 を受ける のが面倒	年齢が高 いので使 えない	病気があ るため使 えない	ここには ない	無回答
全体	1252	-	2.4	0.8	0.6	12.1	0.6
〔性別〕							
男性	539	-	1.1	0.2	0.2	12.6	0.7
女性	713	-	3.4	1.3	0.8	11.6	0.6
〔性別×年齢〕							
男性 16～19歳	49	-	4.1	-	-	20.4	-
20～24歳	58	-	3.4	-	-	8.6	-
25～29歳	84	-	-	-	1.2	14.3	1.2
30～34歳	86	-	-	-	-	10.5	1.2
35～39歳	101	-	1.0	-	-	15.8	1.0
40～44歳	80	-	-	1.3	-	7.5	-
45～49歳	81	-	1.2	-	-	12.3	1.2
女性 16～19歳	52	-	3.8	-	-	17.3	-
20～24歳	72	-	4.2	1.4	-	4.2	-
25～29歳	91	-	7.7	-	1.1	7.7	2.2
30～34歳	100	-	4.0	-	-	11.0	-
35～39歳	140	-	5.0	-	0.7	12.1	-
40～44歳	127	-	-	3.9	2.4	15.0	0.8
45～49歳	131	-	0.8	2.3	0.8	13.0	0.8

第7章 子宮頸がん予防ワクチンについて

1 子宮頸がん予防ワクチンの周知

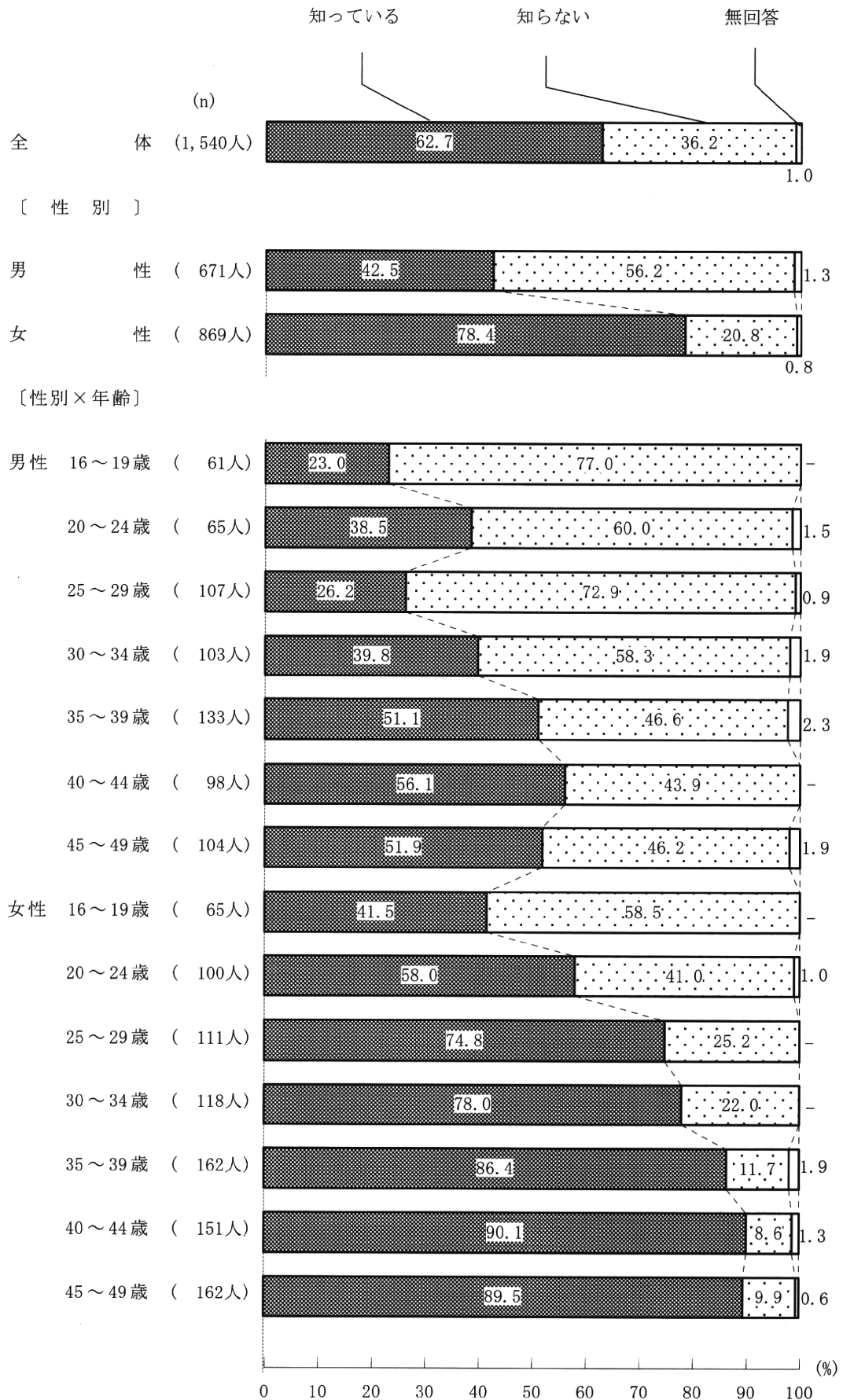


「子宮頸がんを予防するワクチン」を知っているかを聞いたところ、「知っている」(62.7%)者が6割を超え、約3人に1人が「知らない」(36.2%)と答えている。

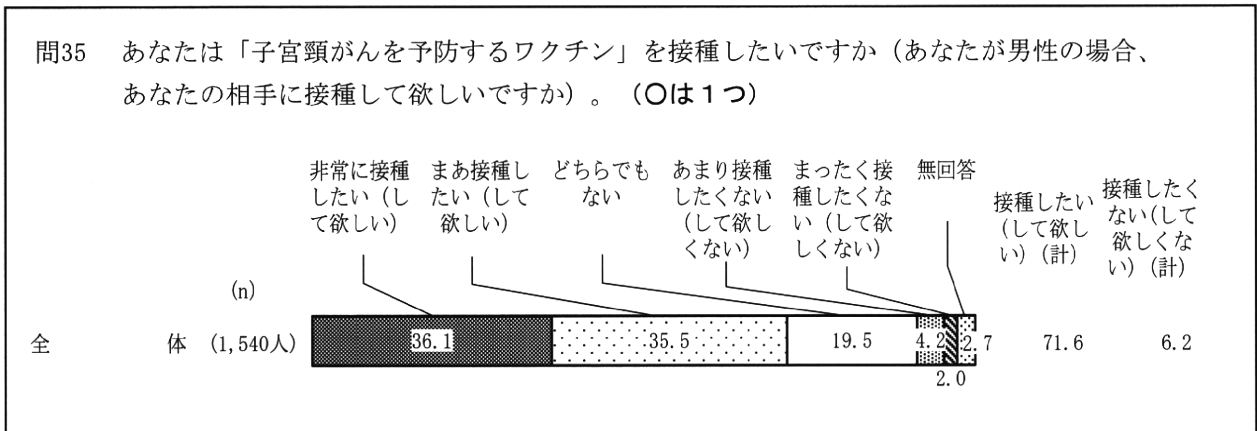
性別にみると(図7-1-1)、子宮頸がん予防ワクチンを「知っている」者は女性(78.4%)が約8割であるのに対して、男性(42.5%)は4割強で、女性の周知度が約36ポイント上回っている。

性・年齢別にみると(図7-1-1)、子宮頸がん予防ワクチンを「知っている」者は、女性では年齢層が高いほど多くなる傾向がみられ、35歳以上では8割以上を占めているが、中でも40~44歳(90.1%)は9割を超えている。一方、「知らない」と回答した者では、男性の29歳以下が他の性・年齢より多くなっている。

図7-1-1 子宮頸がん予防ワクチンの周知（性別、性・年齢別）



2 子宮頸がん予防ワクチンの接種意向

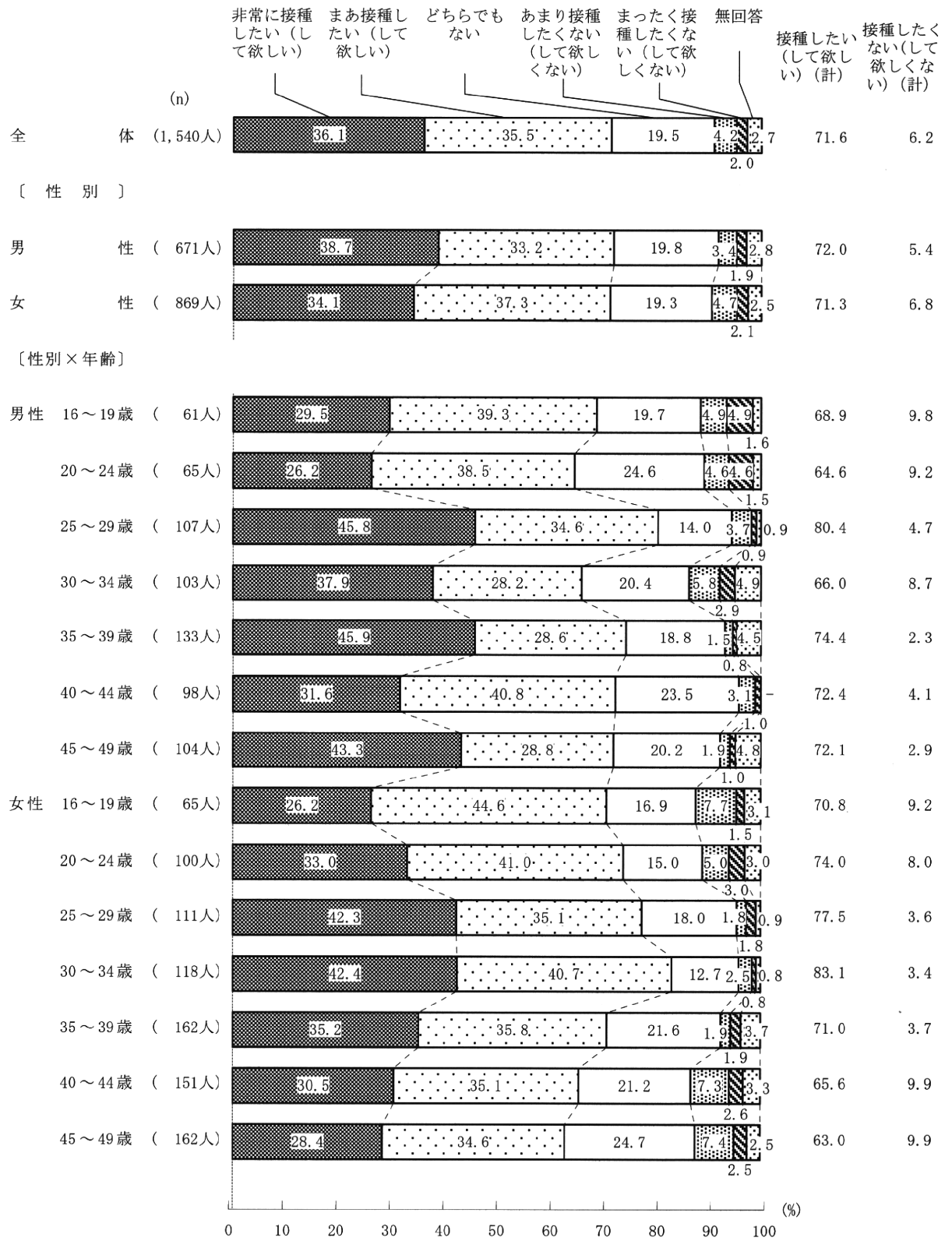


「子宮頸がんを予防するワクチン」を接種したいか（または相手に接種して欲しいか）を聞いたところ、「非常に接種したい（して欲しい）」（36.1%）者と「まあ接種したい（して欲しい）」者を合わせた『接種したい（して欲しい）』（71.6%）という者は7割を占めている。一方、「あまり接種したくない（して欲しくない）」（4.2%）と「まったく接種したくない（して欲しくない）」（2.0%）を合わせた『接種したくない（して欲しくない）』（6.2%）は1割未満とわずかである。また、「どちらでもない」（19.5%）という者は約2割となっている。

性別にみると（図7-2-1）、大きな差はみられない。

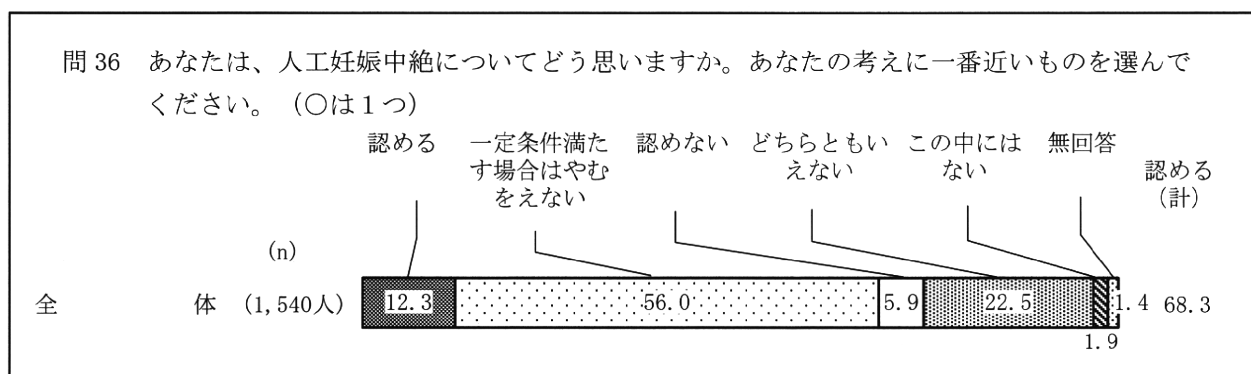
性・年齢別にみると（図7-2-1）、子宮頸がん予防ワクチンを「非常に接種したい（して欲しい）」という者は男性の25～29歳（45.8%）、35～39歳（45.9%）、45～49歳（43.3%）、女性の25～34歳（25～29歳42.3%、30～34歳42.4%）で4割以上となっており、また、それぞれの年齢で最も多数を占めている。また、『接種したい（して欲しい）』という者は男性の25～29歳（80.4%）と女性の30～34歳（83.1%）では8割以上を占めている。

図7-2-1 子宮頸がん予防ワクチンの接種意向（性別、性・年齢別）



第8章 人工妊娠中絶について

1 人工妊娠中絶についての意識



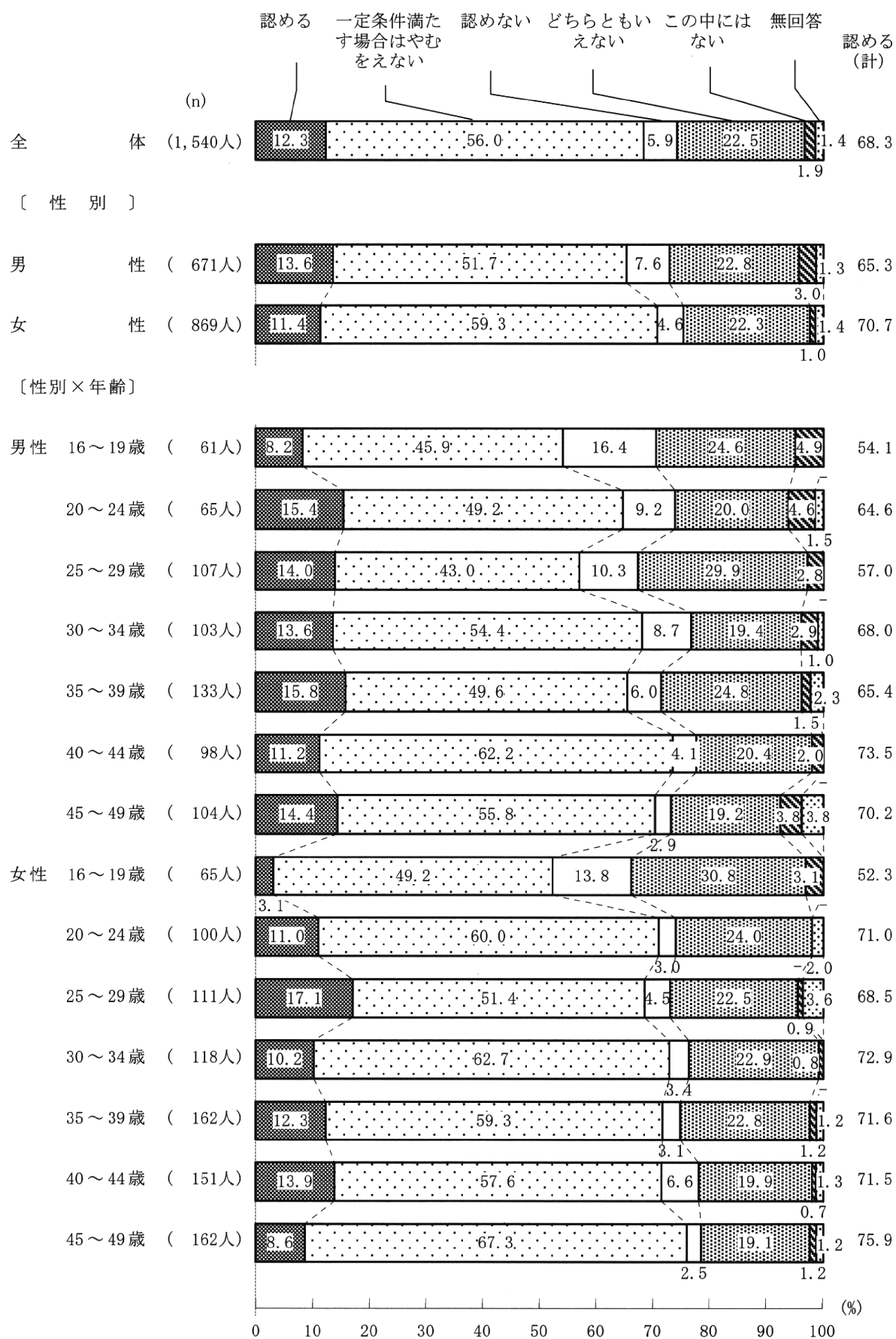
人工妊娠中絶についての意識を聞いたところ、「認める」という者は 12.3%で、「一定の条件を満たす場合は、やむをえない」という者が 56.0%である。「認める」と「一定の条件を満たす場合は、やむをえない」を合わせた『認める』(68.3%)という者は約7割を占めている。

これに対して、「認めない」という者は 5.9%で、「どちらともいえない」(22.5%)という者は2割を超えている。

性別にみると(図8-1-1)、男女共「一定の条件を満たす場合は、やむをえない」が半数を超えているが、男性(51.7%)より女性(59.3%)で多くなっている。

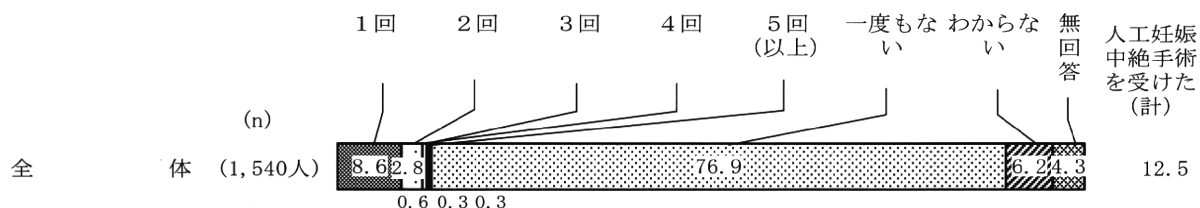
性・年齢別にみると(図8-1-1)、女性の45~49歳では3人に2人が「一定の条件を満たす場合は、やむをえない」(67.3%)と答えている。『認める』という者は男性の40歳以上(40~44歳73.5%、45~49歳70.2%)と女性の20~24歳(71.0%)、30歳以上(30~34歳72.9%、35~39歳71.6%、40~44歳71.5%、45~49歳75.9%)の年齢層で7割以上となっている。一方、「認めない」という者は、該当数は少ないが男女共に16~19歳(男性16.4%、女性13.8%)で多くなっている。

図8-1-1 人工妊娠中絶についての意識（性別、性・年齢別）



2 人工妊娠中絶の手術を受けた経験

問36 あなた（あるいはあなたの相手）は、これまでに、人工妊娠中絶の手術を受けたことがありますか。1から7までの番号に○を1つつけてください。また、1か2に○をつけた人は、その時のあなたの年齢を記入してください。（○は1つ、1または2に○の場合は年齢も記入）



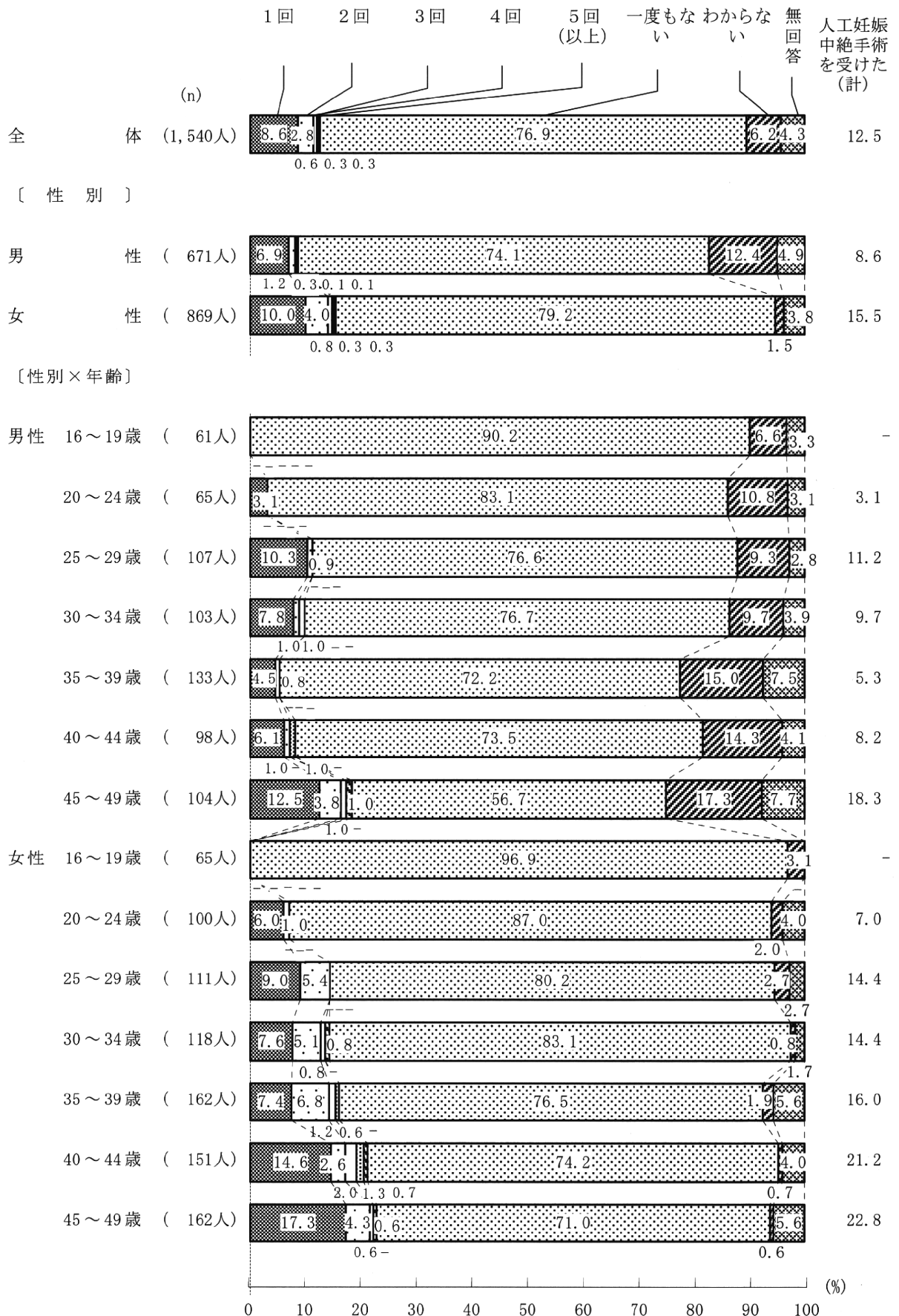
女性には自分自身が、男性には相手の女性が、これまでに人工妊娠中絶の手術を受けたことがあるかどうかを聞いたところ、4人に3人以上が「一度もない」（76.9%）と答え、「1回」（8.6%）という者が1割弱、以下、「2回」（2.8%）、「3回」（0.6%）はわずかである。

回答者全員の中で、人工妊娠中絶の手術を1回以上経験した者を合わせた、これまでに『人工妊娠中絶の手術を受けた』ことがある者（12.5%）は1割以上を占めている。

性別にみると（図8-2-1）、これまでに自分または自分の相手が『人工妊娠中絶の手術を受けた』ことがあるという者は、男性（8.6%）より女性（15.5%）が多い。一方、「わからない」という者は女性（1.5%）より男性（12.4%）に多くなっている。

性・年齢別にみると（図8-2-1）、男女共に16～19歳で『人工妊娠中絶の手術を受けた』者はいない。人工妊娠中絶の手術経験が「1回」という者は、女性の45～49歳（17.3%）で他の性・年齢より多くなっている。また、『人工妊娠中絶の手術を受けた』者でみると、20歳以上のいずれの年齢層でも女性が男性を上回っており、中でも女性の40歳以上（40～44歳21.2%、45～49歳22.8%）は2割を超えている。

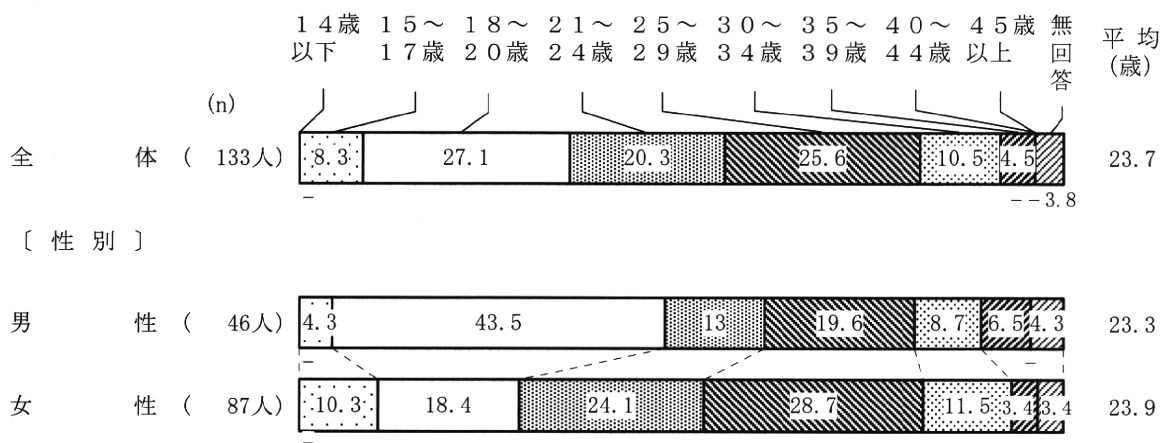
図8-2-1 人工妊娠中絶の手術を受けた経験（性別、性・年齢別）



これまでに自分または自分の相手が人工妊娠中絶手術を受けたことが1回だけと答えた者（133人）に、その人工妊娠中絶手術を受けた年齢を聞いたところ（図8-2-2）、「18～20歳」（27.1%）という者が3割弱で最も多く、以下、「25～29歳」（25.6%）、「21～24歳」（20.3%）の順で続く。平均年齢は23.7歳である。

性別にみると（図8-2-2）、「18～20歳」（男性43.5%、女性18.4%）と「35～39歳」（同6.5%、3.4%）と答えた者は男性が女性を上回っているが、「15～17歳」（男性4.3%、女性10.3%）、「21～24歳」（同13.0%、24.1%）、「25～29歳」（同19.6%、28.7%）、「30～34歳」（同8.7%、11.5%）では女性が多い。

図8-2-2 人工妊娠中絶手術が1回の人の手術を受けた年齢（性別）



人工妊娠中絶手術を2回受けたことがある者（43人）に、2回目の手術の時の年齢を聞いたところ（図8-2-3）、平均年齢は24.9歳であった。

図8-2-3 人工妊娠中絶手術が2回の人々の2回目の手術を受けた年齢

